

■ グループ紹介

京都大学大学院エネルギー科学研究科

京都大学大学院エネルギー科学研究科は平成8年4月に設立された。本研究科は、大学院重点化の流れの中で、社会的ニーズの高い、先端的、緊急性の高い分野の独立研究科を設立してゆくという京都大学の将来構想の一環として創設されたもので、これに続く独立研究科として、情報科学、生命科学、材料科学などの計画が進行中あるいは構想されている。

エネルギー問題は21世紀を迎えるに当たって人類の直面する最重要の課題であることは言をまたない。環境問題、人口、食糧問題もその元をたどればすべてエネルギー問題に深くかかわっている。

エネルギー問題の多様性を反映して、本研究科設立に当たり参加した教官のバックグラウンドは極めて幅広いものである。工学が中心であるが、工学の中でも、衛生、化学、機械、金属、原子核、資源、電気などの分野からの参画があり、その他、経済、農学、理学の分野の専任教授も出来た。

基幹分野は22、協力分野は、エネルギー理工学研究科12分野、原子炉実験所4分野、総合人間学部1分野である。これに客員(外国人を含む)4分野が設けられている。専攻名と講座名、分野名を表に示した。

本研究科は独立研究科ではあるが、教官の大多数は学部(工学部、総合人間学部、農学部、理学部)を兼担しており、学部学生の研究室配属もなされている。学部とのつながりのある新しいタイプの独立研究科である。学生定員は修士課程1学年109名、博士後期課程48名である。社会人の企業在職のままの入学が認められており、博士後期課程に数名の社会人学生が在籍し、今後増加の傾向がみえる。修士課程に在籍する学生の約30%が京都大学以外の大学学部出身者である。入学試験には研究分野の多様性を考慮して出身学部での専門分野をきめ細かく配慮して学力をテストするように配慮されている。

専攻名	講座	分野
エネルギー社会・環境科学	社会エネルギー科学	エネルギー-社会工学
		エネルギー-経済
	エネルギー社会環境学	エネルギー-エコシステム学
		ソフトエネルギー科学**
		エネルギー-情報学
エネルギー社会論	エネルギー-環境学	
	エネルギー-政策学*	
客員講座 国際エネルギー論	エネルギー-社会教育*	
エネルギー基礎科学	エネルギー-反応学	エネルギー-化学
	エネルギー-物理学	量子エネルギー-プロセス
		エネルギー-固体化学
		核融合基礎学
	基礎プラズマ科学	電磁エネルギー-学
		プラズマ物性物理学
	エネルギー-物質科学	核融合エネルギー-制御**
		高温プラズマ物性**
物質反応化学**		
核エネルギー-学	分子化学工学**	
	エネルギー-複合材料化学**	
	エネルギー-物質循環***	
客員講座 先進エネルギー-生成学	中性子基礎科学*	
エネルギー変換科学	エネルギー-変換システム学	極限熱輸送*
	エネルギー-機能設計学	熱エネルギー-変換
		変換システム
	エネルギー-機能変換	エネルギー-材料設計
		機能システム設計
客員講座 先進エネルギー-変換	高度エネルギー-変換**	
エネルギー応用科学	応用熱科学	高品位エネルギー-変換**
	エネルギー-応用プロセス学	機能エネルギー-変換**
		材料プロセッシング
	資源エネルギー-学	機能エネルギー-変換**
		エネルギー-応用基礎学
	高品位エネルギー-応用	プロセスエネルギー-学
		材料プロセッシング
客員講座 先端エネルギー-応用学	資源エネルギー-システム学	
	資源エネルギー-プロセス学	
	宇宙資源エネルギー-学	
	機能変換材料**	
	エネルギー-材料物理学**	
	高品位基盤エネルギー**	

*原子炉実験所 **エネルギー理工学研究科 ***総合人間学部

現在、ようやく2年目に入ったばかりであり、すべてが試行錯誤の連続であるが、教官も学生も、新しい研究科でエネルギー問題に取り組む事の意義を感じ、活力ある研究科に育ちつつある。

所在地：〒606-01 京都市左京区吉田本町

文責：エネルギー科学研究科長 新宮 秀夫